

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信

発行：県立多治見病院緩和ケアチーム 2017年7月号 vol.76
文責：マイケル・ケイン・大蔵真子 編集：櫻田 亜矢子



諸外国の緩和ケアマニュアルでは、がん患者の心理的評価と介入として4段階があるとされている。第1段階ではすべての医療者、第2段階では心理知識を有する医療者が担当することとされている。第3では心理職、第4段階では精神科医が担当することとされている。大別すると第4段階は精神医学領域で、それ以外は主に医療心理学の領域である。第3段階は医療心理学領域の専門家である心理職が行うとされ、第1と第2段階はすべての医療者で対応が可能な範囲であるとされている。

当院を含めた総合病院では、精神症状があるだけで、精神疾患と疑われる場合がある。精神症状があるだけでは精神疾患にならないので、適応障害やうつ病等の診断を満たさない状態への理解が必要である。心因反応、否認、再発不安、実在的苦痛等の心理状態があり、それらを和らげるための精神的ケアが必要とされる。

つまり心理社会的介入は、専門性に限らず、ときにすべての医療者に求められる。心理社会的介入の方法としては、支持的療法、問題解決療法、行動療法的介入、ディグニティーセラピー、回想法等がある。前述の心理社会的介入のすべてを網羅することは困難と考えるが、医療心理学の研鑽、すべての医療者に必要とされるのではなかろうか。

文責：マイケル・ケイン



こんにちは、相談員の大蔵です。暑いですね、皆さまお変わりないでしょうか。

7月15、16日に東京で行われた日本ホスピス緩和ケア協会の総会に出席し、『緩和ケアチームのやりがいを高める』という分科会に参加してきました。その中で、自身の強みを知るため2人1組となり、①あなたに意味(Meaning)を与えるものは何か、②あなたに喜び(Pleasure)を与えるものは何か、③あなたの強み(Strengths)は何かという3つの問い(MPS Process)をお互い話し合うワークをしました。出来るだけこの3つが一致する仕事や人生を目指すことが良いそうです。改めて問いを考えてみると、いろんな事柄に感謝する気持ちが現れてきました。是非、周りでやってみて欲しいです。

とにかく人間は否定的・消極的な考えに陥りがちですが、自分の強みを知る事がセルフマネジメントにもなるのだと少しだけ元気になって帰ってきました。チームで動く力をどのように発揮していくか課題はありますが、緩和ケアチームの素敵なメンバーと地道に活動していこうと思った次第です。



緩和ケア勉強会のお知らせ



日時：8月10日(木) 18:00~19:30

場所：中央診療棟3階講堂

内容：外来通院時から緩和ケアチームが関わった一事例